

2023年

カトリック笹丘教会ニュース

No.0108

聖母被昇天号



命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだすものは少ない。(マタイ7・14)



カトリック鳥栖教会所属 稲葉人志氏作



Glorious feast of the Assumption of Mary



With joy and thanksgiving let us celebrate the mystery of Mary's body and soul's entry into the fullness of life in the heavenly Kingdom. Mary's body, undefiled by the corruption of death, partakes forever in the glory of the resurrected life. St. Augustine reminds us that when we celebrate the special grace that was bestowed on Mary, we should also remember the grace that was given to ourselves through the gift of baptism.

In sermon 72A, St. Augustine instructs his faithful using these words, [And so, just as Mary gave birth in her womb, so let the members of Christ give birth in their minds, and in this way you will be mothers of Christ. It isn't something out of your reach, not something beyond your powers. You became children, become mothers too. You were the mothers's children when you were baptized, then you were born as the members of Christ. Bring whomever you can along to the bath of baptism, so that just as you became children when you were born, you may likewise be able, by bringing others to be born, to become mothers of Christ as well.]

Like Mary, we too are invited to work to bring forth new children to Christ's family. Today, as we are filled with the joy of the Assumption of our Mother Mary into the bliss of eternal happiness, so too, let us pray for ourselves, that we may imitate Mary by bringing new members as sons and daughters of Christ's family. Whenever we gaze up at the beautiful stained glass of our Sasaoka Church, let us remember the loving mantle of Mary protecting us now and until the day when we are called to stand aside our Mother Mary, enjoying with her the delights of everlasting life.

Michael Hilden, O.S.A.



聖母マリアの被昇天によせて

マイケル・ヒルデン主任司祭

喜びと感謝のうちに、聖母マリアが身も心も満たされた命へと導かれた、この神秘を祝福いたしましょう。死のために朽ちることのない聖母マリアの御身は永遠の命という栄光に加わります。聖母マリアに与えられたこの特別な恵みを祝う時、私たちもまた洗礼を通じて同じ恵みを与えられたことを忘れないようにと、聖アウグスチノは述べています。

聖アウグスチノは、第72Aの説教で次のように信者に教えました。「聖母マリアが母胎からキリストを産んだと同様にキリスト教の信者もキリストを心から産んでください。そうすると、あなた方もキリストの母になります。これは決して手が届かないことではなく、あなた方の力の限界を越えることでもありません。あなた方は子どもになれたから母にもなれるはずで、洗礼を受ける前、母の子どもたちでありました。その後、あなた方はキリスト教の信者として生まれ変わりました。あらゆる人々を洗礼に連れてきてください。そうすると、あなた方が生まれた時に子どもになったと同様に他の人々を洗礼に連れてくることによってあなた方がキリストの母にもなれます。」

聖母マリアのように、私たちもキリストの家族に新しい子どもたちを迎えるべく努力するよう、求められています。今日、私たちは聖母マリアが永遠の幸福である天の国へと上げられたことを祝う喜びに満たされながら、マリア様にならい私たちもキリストの家族に新しい息子たち娘たちを連れて来ることができるよう、私たち自身のために祈りましょう。笹丘教会の美しいステンドグラスを見上げるたびに、今も、そして聖母マリアのそばに呼ばれて永遠の命を共に楽しむその日までずっと、私たちを守ってくださる聖母マリアの愛のmantleを心に留めましょう。

よろしくお願いいたします！！



マキシミアノ・マリア・コルベ桑原篤史神父様

聖変化



天地の歓喜

聖アウグスチノ修道会 桑原篤史

皆様の大きな祈りに支えられて2023年5月27日に司祭叙階のお恵みをいただくことができました。これまでの歩みを支えてくださったことに心より感謝申し上げます。

叙階式の準備は大変でしたが、これも福岡教区の神父様方、事務局、浄水通教会、大名町教会、笹丘教会、そして、信徒協、福岡地区カトリック女性の会など、様々な方のお力を借りて準備にこぎつけることができました。アメリカからのアウグスチノ会員も到着しておもてなしをし、準備万端で臨んだはずの司祭叙階式でした。しかし、いざ、叙階式の入祭の伴奏がなり歌が始まると、その凄まじい歓喜の歌声に、一瞬にして全身から鳥肌が立ちました。その時、やっとすべてを悟りました、「この私の司祭叙階式のために、このすべてが行われている。ここに集まった神父様方、信者の皆様は、私一人のためにだけに集まっている」。その時、ことの重大さに気づきました。「なんてことをしてしまったのだろう、なんというお恵みなのだろう。」その時、本当の最後の覚悟をしたように感じます。当時のことを思い出すと今でも鳥肌が立ちます。それほど、強烈な天地の喜びを感じたのです。その鳥肌は、叙階の儀に入るまで続きました。どうして、叙階の儀の前までかというと、叙階の儀では返事のタイミングを間違えたり、いくつかミスをして、鳥肌どころではなく今度は冷や汗が出てきたからです(笑)。それでも、何とか無事に叙階式が終わり、最後に退堂したときに、聖堂の外で司祭団が鳴りやまない盛大な拍手をしてくれたときは、再び鳥肌が私の全身を覆いました。



大きな大きなお恵みをいただいたと感じています。

私たちの主イエス・キリストにならい、神の御旨に信頼し、神の民に寄り添い、神の愛を、福音を伝えるというこの司祭職を全うできるよう、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【写真 6.11 初ミサ】



お説教

大分教区 幸 真宏神父様 4月29、30日
笹丘教会 初ミサ

2011年から2015年大学時代、笹丘教会に通われた幸神父様。今年3月21日に司祭叙階を受けられ、現在、宮崎小林教会にお務めされています。これからもお元気に活躍されますことをお祈りいたしましょう。



モラス神父様 幸神父様 桑原神父様 ヒルデン神父様



お説教

とてもわかりやすいお説教をいただきました！！



聖体
拝領



マイケル・ヒルデン神父様

司祭叙階 50 周年 おめでとうございます！！

1973年9月3日の夜羽田空港に到着した瞬間、25 歳だった私は赤ん坊に戻った。江戸川区の松江教会に向かう途中ネオンサインを見て、全く読めない漢字の世界に囲まれているのに気づいた。非識字者となった私は、日本で挑戦に満ちた宣教師の新生活を始めた。涙を流しながら、2年間日本語学校に通っている間に少しずつ日本語を覚えていった。説教はまだできなかったが、日本語で共同司式のごミサを捧げることができてとても嬉しかった。日本の文化と言葉を覚えるには時間と忍耐が必要だったが、日本人信者とともて日曜日の感謝の祭儀を捧げるとき、幼児神父の私は嬉しくなり不安と苦労が消えていった。日曜日に、祈りの共同体が信仰と愛で私に示した応援や励まし、そしてお祈りを通して宣教師として歩む力と恵みをいただいた。最初に出会った教会の共同体からいただいた多くの恵みを50年後の今も深く感謝している。

【2023年3月福岡教区報第772号より一部抜粋】

司祭叙階50周年おめでとうございます。ゆっくりするどころか、今までよりお忙しくなった神父様の肩の荷を、少しでも減らす助けとなれますように。神父様が健康を保って、神様のみ旨を果たし続けていけるようお祈りします。 ペトロ



ヒルデン神父様、いつも温かな笑顔で迎えてくださるので嬉しいです。これからもずっとその笑顔で私たちを見守っててください。
アジジのフランシスコ Y.M

いつも暖かく見守って頂き有難うございます。50年ものご経験を、どんどん私たちにも分けてください。いつも謙虚な対応に感謝致します。かふん症のお話など、ウイットに富んだお話をこれからもよろしくお願い致します。パウロ H.H

Profoundly grateful to God for guiding you so far as we sincerely pray that our Father in heaven continue to grant you many more years of strength and wisdom in serving your calling. Wishing you a heartfelt HAPPY 50TH ORDINATION ANNIVERSARY
Rev.Fr.MICHAEL HILDEN !
From: Y and Family

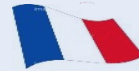
ヒルデン神父様、叙階50周年おめでとうございます。いつも優しくお声をかけてくれるヒルデン神父様が大好きです。これからも優しいヒルデン神父様でいてください。 テレジア

ヒルデン神父様司祭叙階50周年おめでとうございます！城山教会でお会いしてから45年くらい経つんですね。そのお優しいお声と笑顔といつまでも謙遜なお姿に、聖ヨセフ様を見るようです。これからもお体にお気を付けて司牧活動に邁進されてください！大好きです！ ヨセフ

ヒルデン神父様の叙階50周年、おめでとうございます。半世紀の大半を異国の地、日本で、言葉も気候風土も生活習慣もまるで異なった世界でのご苦労は如何ばかりであったかと想像を巡らせます。神様のメッセージ、ミッションを心に、身体にしみ込ませて、ただひたすらに、とは言え笑みを絶やさず優しい口調でわかりやすく、ユーモアをたえたお話しぶり。老若男女の、心の奥に、スーッと受け入れられ、納得して、安心を与えてくださいます。神の威光を感じつつ、また信頼をいただいて、感謝を忘れない心を自然に抱かせてくださる伝道師です。素晴らしい出会いに感謝しております。
エリザベト

2018
新年会
香港基
督勞工
堂の方
と





ジョセフ・



今月5月下旬から10日間フランスへ向かいました。これを機に同国の歴史的に重要な教会から一般信者が毎週日曜に通う小さな教会まで取材してきました。皆さんと共有したいと思い3回に分けて連載とします。今回はノートルダム大聖堂を紹介します。

「カトリック教会(つまり、「バチカン」)の長女」と呼ばれているほど信者が多いフランス。2世紀に早くもカトリックの国となり、現在も約70%のフランス人がカトリック信者と言われています。

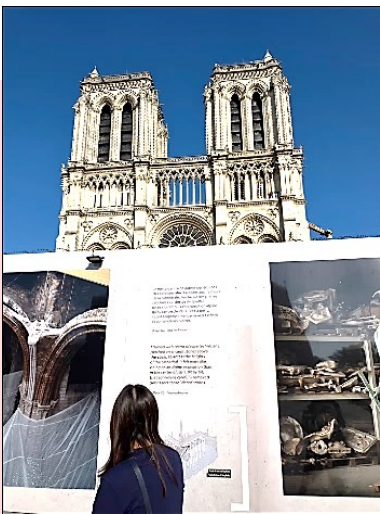
世界遺産でもあるパリの有名なノートルダム大聖堂は、2019年4月に大規模な火災に襲われて世界中の人々が驚愕(きょうがく)しました。火災が発生してからちょうど4年1ヶ月後、現地に足を運び現状を確認しました。



正面から見た
ノートルダム大聖堂
(2023年5月現在)

地下鉄の駅から出てセーヌ川を架ける橋を渡れば、すぐにノートルダム大聖堂の姿が目に入ります。遠くから見ると、火災で崩壊された尖塔(せんとう)がないこと以外、何の変わりもないように見えます。近づきますと、大聖堂の周辺が全て塀に囲まれていることや、巨大な移動式クレーンが大聖堂の上に伸びているのが分かります。その塀に火災前後の写真や改修工事の説明が掲示されています。

正面から大聖堂の側面に沿って歩いたら、損害がどれだけ無惨なことだったか初めて見えました。全滅した長さ約100mの木製屋根が全て足場に囲まれており、この日、屋根用の木材と思われるものがクレーンで工事現場へ移動されている光景が印象的でした。作業は急ピッチで進んでおり、2024年4月に5年ぶりにミサが行われると、フランス政府が発表しました。それが実現できれば、喜ばしいことに2024年パリオリンピックに間に合うこととなります。



火災前後の写真や改修工事の説明パネルが並んでいる塀。奥にノートルダム大聖堂2つの塔が見えます。

ノートルダム大聖堂は、1163年から建設が始まり1345年に竣工されゴシック建築の頂点と呼ばれています。本物の「いばらの冠」や十字架の破片のほか、キリストの磔刑(たっけい)に実際に使われていた釘という、キリスト教世界での最も大切な聖遺物が1806年からこの大聖堂に保管されています。火災発生後、これらの「宝物」が消防士たちによって確保され安全な場所に運ばれたとされています。

横から見たノートルダム大聖堂。木製屋根を囲む足場や大型移動式クレーンが確認できます。





お世話になっています

ひろたまなぶ
司牧実習生 トマ廣田 学 神学生



「司祭召命は神秘」

長崎教区 神学科三年 トマ廣田学

4月から司牧実習でお世話になっております。長崎教区神学科三年のトマ廣田学です。

私の出身小教区の鹿子前(かしまえ)教会は、眼前に九十九島を見渡せる佐世保市のリゾート地帯に位置する教会です。現在は巡回教会である船越教会の主任司祭であった川添猛神父様が、1970年に建ててくださいました。私の祖父や大伯父(祖父の弟)も建設に関わったと聞いております。そこで私は1972年4月に洗礼を授かりました。

高校一年で福岡工業高校土木科へ転校し、高校卒業後は、東京都港湾局において一般土木職員として28年間働かせていただきました。

そのような中、今一度自分自身の司祭召命を振り返ると、改めて「司祭召命は神秘」であると気付かされております。今から7年くらい前、ある女性と教会で偶然に出会い、主任神父様の紹介を通してその人の息子さんの代父になりました。素性を聞いたところその人は、当時私の姉がいた修道院のシスターの義理の妹さんでした。その偶然の出会いから、聖書講座へ参加するようになり、そこで「自分の人生は神によって導かれていること」に気付かされ、司祭職への道を決意しました。ただ決意に至るまでの道のりはそれほど単純ではなく、それ以外の経験も複雑に絡み合っていると考えられ、「司祭召命は神秘」であると思います。

この神秘を追い求めつつ、これからも頑張ってお参りますので、どうぞお祈りください。

7月26日~8月9日までワールドユースデー(リスボン)に参加して、9月30日からまた皆さんとお会いできるのを楽しみにしております。



笹丘カトリック幼稚園行事紹介 サンタ・マリア祭 5月19日(金)



リハーサル 折り紙のお花

聖母マリアの月、5月。幼稚園でもマリア様をたたえる行事が行われています。17日にリハーサルが行われましたので覗いてみました。園児たちが主の祈りをとなえ、「マリア様のこころ」を歌う元気な声が聞こえました。リハーサルの献花は折り紙で作っていました。素直で純粋な気持ちで伝わりました。マリア様、神様にきっと想いが届くことでしょう。



写真はサンタ・マリア祭当日です(信者協力)

秘跡・異動 2023年3月～7月【敬称略】

洗礼 3月22日マリア・エンヌエラ・ベルナデッタ、マリー・テレーズ・ベルナデッタ
3月30日マリア(臨終洗礼)
4月16日トマス・デ・サン・アウグスチノ

初聖体 4月23日ペトロ、アンジェラ・メリチ

転入 4月16日ヴェロニカ、マリア・クララ、
ペトロ、マリア、マリア、幼きテレジア、ミカエル、幼きイエスのテレジア、マリア

転出 3月28日モニカ(葛西教会へ)
4月5日ペトロ、マリア・ヨゼフィーナ(西新教会へ)
4月7日フランシスコ・ザビエル(つくば教会へ)
5月7日マリア・ローザ(北九州黒崎教会へ)、マリア・ベルナデッタ(箱崎教会へ)
5月16日ヨハネ(京都河原町教会へ)
6月21日ヨゼフ、ファティマのマリア、ステファノ(大分坂之下教会へ)

帰天



永遠の安息を願って兄弟姉妹のためにお祈りいたしましょう



3月14日ヨゼフ 94才

4月1日ヨゼフ 85才

5月14日アンナ87才

5月15日マリア94才

6月9日アンナ 38才

7月2日マリアエリザベト 84才

広報委員会よりお知らせ ・今号より帰天された方の写真を入れて紹介することといたします。

兄弟姉妹の永遠の安息を皆でお祈りいたしましょう。

・広報委員に新しいメンバーが増えました。よろしく願いいたします。

7名になりました!!ますます充実していく「こみち」です。神に感謝。

編集後記 先日珍しく体調をくずし寝込んだ際、本だけは読めたので、図書館で借りていた本を一気読みしました。遠藤周作「女の一生」一部・二部。「沈黙」と合わせて切支丹三部作と言われています。

巡礼で長崎市内や五島列島、平戸を訪ねたことはあったものの、実際はキリシタン迫害の歴史もろくに知らずにいた私は、江戸末期～明治時代、そして戦中戦後の二人の女性をめぐるこの小説を読んで初めて、長崎の方々の信仰のルーツ、その強さや優しさの源を見た気がしました。特に主人公たちが、信徒発見の舞台となった大浦天主堂の聖母マリア像に足しげく通い祈る姿が心に残っています。

それは「子供が母親に何もかもうちあけるような祈りだった」とありました。

聖母被昇天の祝日。久しぶりに大浦天主堂を訪ねてみたいと思いました。そしてこの笹丘の聖堂後ろにあるマリア様にも同じように思いをうちあけてみても良いのかな、と。

金祝を迎えられたヒルデン神父様、そして司祭に叙階された桑原神父様、心よりお祝い申し上げます。お二人に支えられて、弱い私たちの信仰が強められていきますように。
(4班 テレジア)



発行:カトリック笹丘教会 広報委員会 2023年8月15日

〒810-0034 福岡市中央区笹丘 1-16-1 電話092-761-4504 fax092-761-4524